

梅雨明け以降の高温に対する対策

7月中旬以降以降、高温、寡雨が続き、8月5日に30.5mmの降雨（図1果樹試本場気象観測）があったものの、土壌中の水分状態を示す場内のpF値は依然2.7以上（成長有効水の上限値を超過）を示しており、干ばつ状態は解消されていない（図2）。

今後1ヶ月の気温（8月2日仙台管区気象台発表）は50%の確率で高い見込みであり、引き続き生育への影響が懸念される。生育を注視し、状況に応じ可能な限り対策を講ずる。

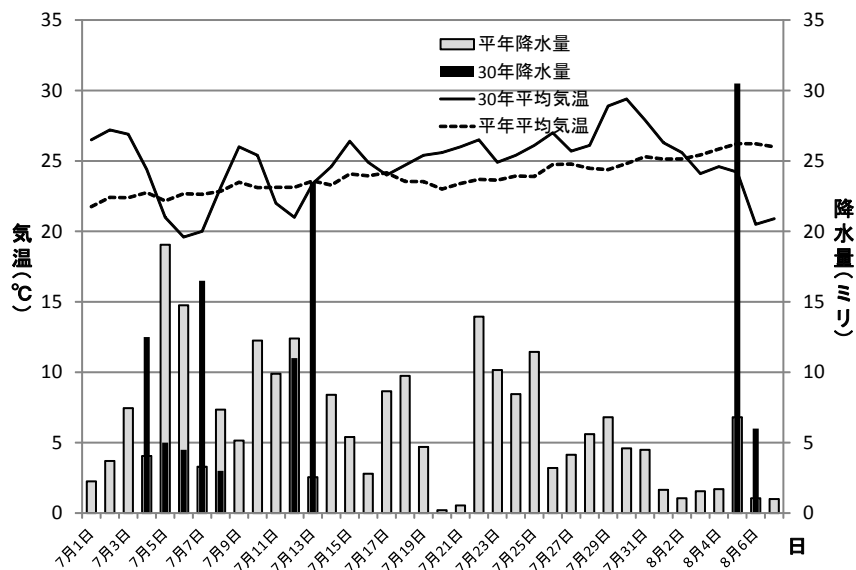


図1 7月～8月の気温と降水量の推移(平成30年 果樹試本場)

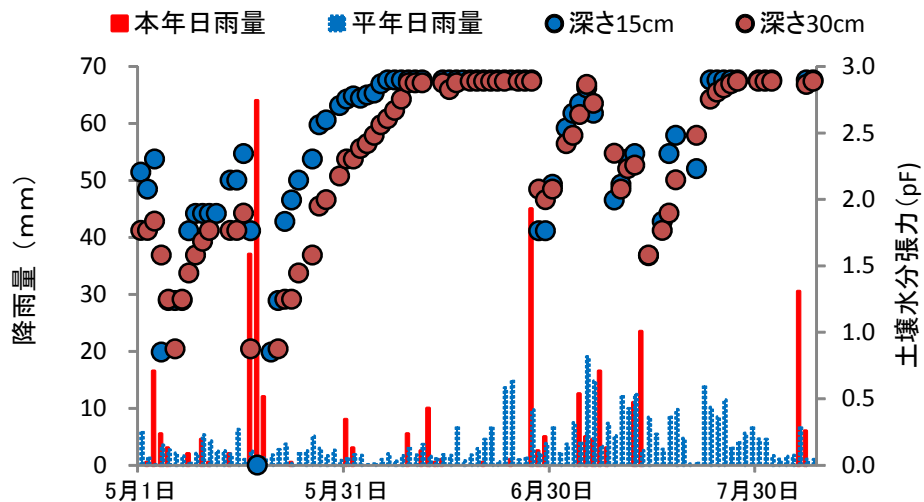


図2 土壌水分の推移(平成30年果樹試本場)

表1 高温・干ばつの影響が懸念される事項とその対策

樹種	高温、干ばつの影響		対策
リンゴ	果実	日焼けの発生	直射光が当たる部位を寒冷紗等で覆う 着色管理は日中に実施
		肥大の抑制	かん水を実施
		着色不良 内熟先行	直接的対策は無いため果実硬度に留意した収穫に務める
	虫害	ハダニの増加	不要な徒長枝をせん去し、薬害と散布ムラに注意する
	病害	輪紋病の樹上発生	収穫果の丁寧な選果に務める
土壌病害の発生		かん水を実施	
ブドウ	果実	縮果症の発生 未熟果粒の発生	障害果は早めに摘粒(お盆頃袋を外して再点検) かん水を実施(苗木10~20 ^{リットル} 、若木50~100 ^{リットル} 、成木100~200 ^{リットル} /樹)
		日焼けの発生	直射光が当たる場房に笠掛けを実施 障害果は早めに摘粒
モモ	果実	日焼けの発生	徐袋は果実温度が上がってから実施、着色管理の際は過度な摘葉を慎む
		肥大の抑制	かん水を実施(ただし、着色期に入ったらかん水は控える、これら以外は100 ^{リットル} /樹)
ニホンナシ	果実	日焼けの発生	新梢を棚に誘引
		肥大の抑制	かん水の実施、着果調整
		果肉の軟化	直接的対策は無いため果実硬度に留意した収穫に務める
	虫害	ハダニの増加	早期発見、薬害と散布ムラに注意し早期防除に務める
樹体	葉やけの発生	高温時の薬剤散布を避ける	
オウトウ	樹体	葉やけの発生	かん水を実施、高温時の薬剤散布を避ける
	虫害	ハダニの増加	不要な徒長枝せん去、早期発見、薬害と散布ムラに注意し早期防除に務める
セイヨウナシ	樹体	葉やけの発生	かん水を実施、高温時の薬剤散布を避ける
	虫害	ハダニの増加	不要な徒長枝せん去、早期発見、薬害と散布ムラに注意し早期防除に務める
スモモ	果実	日焼けの発生 果肉の軟化、成熟促進	反射資材はアルミからタイベックへ変更する、反射資材の敷設は短期間にとどめる
共通	樹体	苗木や若木の生育不良	晴天が4日前後続いたら20 ^{リットル} /樹 かん水を実施 幹周りを敷き藁等でマルチする
		樹体の日焼け	骨格枝の徒長枝せん去は、弱めのを残す(リンゴ) 基部15cm残してせん去(モモ)、稔枝を実施(ニホンナシ)